

「保育者養成における表現活動について(2)」

多保田 治 江
田 辺 圭 子

I. はじめに

前報(註1)では、多保田と田辺によるチームティーチングによって行われている保育内容研究Ⅳ「子どもの表現活動」における音楽と動きによる表現に関する授業の試みと、学生の作品作りで見られる授業の現状を通してその問題点を指摘した。また、「保育科らしさ」の意識調査によって、本学保育科学生が、表現活動を円滑にする素地を持っており、その一端は「ボディーサウンドを見つける」という課題に対して、学生達が数多くの表現方法を見出せることから伺い知ることができた。このように我々は授業において試みを検証する方法をとっている。その成果や課題を分析する研究は、授業改善のためのフィードバックとなるので重要であると思われる。

本報では、表現活動について学生達の現状と過去の体験を明らかにし、音楽と動きの両側面からの検討を行うことによって、将来保育者となる学生達の豊かな感性や様々な表現の可能性を見出せる力を養うための保育者養成校における表現活動について考察するものである。

II. 幼稚園実習中に行った表現活動に関するアンケート調査

授業内容に新たな検討を加えるとともに、保育者養成校における表現活動について考えるために、前報と同一学生に対して、幼稚園実習(2年前期実施)終了後アンケート調査を行った。

1. 方法

調査対象：1年次に保育内容研究Ⅳ(子どもの表現活動)を受講し、2年前期に幼稚園実習を終えた2年生116名。

調査期間：1997年10月～11月

調査内容：以下の内容についてアンケート調査を行った。

(1) 幼稚園実習中に行った表現活動について。

(2) 1年次受講した保育内容研究Ⅳ(子どもの表現活動)と幼稚園実習について。

(1)については、選択項目を用意し、複数回答可とした。また、選択項目に当てはまらない場合は、該当する答えを書かせた。(2)については、記述とした。

なお、幼稚園実習で表現活動を行わなかった学生に対しては、(2)のみの回答とした。

2. 結果と考察

(1) 幼稚園実習中に行った表現活動について

幼稚園実習中に行った表現活動について、72種類の回答が得られた。そこでそれらを「変身して（そのものになりきって）表現」、「特定の場所での体験を表現」、「目的地にたどり着くまでを表現」、「成長の過程を表現」、「遊び、ゲームを用いた表現」、「外的刺激に反応」、「劇遊び」、「既成作品」、「その他」の9つのカテゴリーに分類した。（表1）。

実施されたものの中で多く実施されたものは、「既成作品」（26.1%）、「目的地にたどり着くまでを表現」（21.7%）、「変身して（そのものになりきって）表現」（18.9%）、「特定の場所での体験を表現」（17%）、であった。「既成作品」が最も多かったのは、表現する内容を特に考える必要がなく、決められた動きをそのまま子どもに伝えるだけでよいためと考えられる。また、「目的地にたどり着くまで」は、「～へ行く」という一連の流れが決まっている中で、自由に内容を加える事ができるためであり、「変身して（そのものになりきって）表現」、「特定の場所での体験を表現」は、表現する内容と流れを自由に考える事ができるため、表現する内容の順番を覚える必要のある「劇遊び」や「成長の過程を表現」に比べて使用することが多いのであろうと考えられる。また、「外的刺激に反応」や「その他」のように、動きそのものに意味づけの必要がないものは、子ども達に表現するための動機付けが必要であるため、あまり用いられなかったのであろうと予想される。

表1 実習中に行った表現活動

表現カテゴリー	表現したもの	実施数
変身して（そのものになりきって）表現 34人（18.9%）	1. 動物	8
	2. 忍者	7
	3. 汽車	3
	4. のりもの	3
	5. 洗濯機	2
	6. お母さん	2
	7. 不思議なアメ	1
	8. 動物の運動会	1
	9. 鳥	1
	10. 虫になってかけっこ	1
	11. 花	1
	12. 雨	1
	13. リンゴの木	1
	14. たんぼぼのわたげ	1
	15. シャボン玉	1
	16. かいじゅう	1
	17. お掃除	1
	18. マリオネット	1
特定の場所での体験を表現 30人（17.0%）	1. 動物園	13
	2. ゆんえんち	7
	3. ディズニーランド	4
	4. 魔法の国	4
	5. 不思議な世界	2

「保育者養成における表現活動について(2)」

表現カテゴリー	表現したもの	実施数
目的地にたどり着くまでを表現 39人 (21.7%)	1. 散歩 2. 山へピクニック 3. 野原へピクニック 4. 森へハイキング 5. 山登り 6. 海へ行く 7. ハイキング 8. 汽車に乗ってピクニック 9. ジャングル探検 10. 山へサイクリング 11. 宇宙へ行く 12. 車に乗ってドライブ 13. 車に乗ってカレーライスを食べに行く 14. ドライブに行く 15. 雨の日の散歩 16. 動物になってピクニック 17. 飛行機で空を飛ぶ	8 5 4 4 4 3 3 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1
成長の過程を表現 3人 (1.7%)	1. たんぼぼの種の成長 2. おたまじゃくしがかえるになるまで 3. チョウチョウになるまで	1 1 1
遊び・ゲームを用いた表現 9人 (5.0%)	1. 魔法遊び 2. バスごっこ 3. まねっこ遊び 4. じゃんけんきしゃぼっぽ 5. 鏡よ鏡	3 3 1 1 1
外的刺激に反応 6人 (3.3%)	1. 楽器遊び 2. ピアノに合わせて 3. 楽器作り遊び	3 2 1
劇遊び 10人 (5.6%)	1. はらべこたろう 2. 大きなかぶ 3. とんとんとんとめてくださいな 4. スイミー 5. かいじゅうたちのいるところ 6. 3びきやぎのがらがらどん 7. 10匹のかえるののど自慢 8. おおかみと7匹のこやぎ	3 1 1 1 1 1 1 1
既成作品 47人 (26.1%)	1. ディズニーたいそう 2. ホ・ホ・ホ 3. チェッ・チェツコリ 4. 木が一本 5. アブラハム 6. クレヨンのダンス 7. ジャナイジムナスティックス 8. おてもやん 9. ホーキー・ポーキー 10. 出してひっこめて123 11. ビ・ピカン 12. とんがり体操	16 10 7 3 3 2 1 1 1 1 1 1 1
その他2人 (1.1%)	1. 動きのパリエーション	2

多保田 治江・田辺 圭子

実施数の多いものは、「既成作品」の1.ディズニーたいそう(16)、2.ホ・ホ・ホ(10) 特定の場所での体験を表現」の1.動物園(13)、「変身して(そのものになりきって)表現」の1.動物(8)、2.忍者(7)「目的地にたどり着くまでを表現」の1.散歩(8)であった。このうち、ディズニーたいそう、ホ・ホ・ホ、忍者は、授業で行った内容であり、学生達にとって実習に使いやすい内容であったと思われる。また、動物園、動物と動物に関係する表現が多いという結果を得たが、その理由については、今後の課題としたい。

(2) 活動中の子ども達の様子について

表現活動中の子ども達の様子に関する回答を「積極的参加」、「消極的参加」、「不参加」、「その他」の4つのカテゴリーに分類した(表2)。「積極的参加」が53.4%と他のカテゴリーよりも多いことから、学生達が行った表現活動に対して、子ども達が何らかの形で受け入れている様子がうかがえる。しかし、「不参加」の中に③戸惑っていた、「その他」の中の①理解していなかったのように学生達が子ども達に与える表現課題の与え方に問題がある場合と、「不参加」の中の①疲れていた、②まとまらなくなってしまった、その他の中の⑤皆同じ動きになった、⑥だんだん飽きてきた等、課題の内容に問題がある場合があることがうかがえる。また、「消極的参加」、「不参加」、「その他」で示された子ども達の様子に対する言葉かけ等の対応については、今後検討する必要があると思われる。

(3) 活動に用いたもの

表3に示されるように、全体的な傾向として、2.マット、16.跳び箱、4.ボール、27.技巧台、24.平均台などの運動遊具と、6.新聞紙、10.ゴミ袋、18.段ボールなどの身近にあるものを、表現のための見立てや効果に工夫して用いていることがうかがえる。

表現活動で特に多く用いられたのは、「フープ」であった。その理由として、フープが軽くて持ち運びやすい運動遊具であることから他の活動へ移行が容易であり、適度な運動量が期待できるためと考えられる。しかし、同様の特性をもった縄跳びはあまり用いられていないことから、フープの形が表現活動をするうえで、想像を豊かにさせる要因の1つではないかと予想される。この点については、今後改めて検討してみたい。

(4) 活動に用いた動き

活動に用いた動きは、表4に示した通りである。35種類ある動きの中で多い動きは、1.歩く、2.走る、3.跳ぶであり、1.歩く、2.走るは全員が用いていた。これは、学生達の提示する表現活動に、全身運動的な要素が取り入れられており、表現が身体の一部で終始するのではないことを示すものと考えられる。しかし、このことが表現よりも動きを重視していることを現しているとすれば、単に動きのために表現対象を用いているだけで、何の創造性も育まれない。

表現対象と動きの関係について、今後調べてみたい課題である。

「保育者養成における表現活動について(2)」

表2 表現活動中の子ども達の様子

参加カテゴリー	活動中の子ども達の様子	実施数
積極的参加 93人 (53.4%)	①楽しんでいた ②参加する子としない子がいた ③なりきっていた ④話に入り込んでいた ⑤思いも寄らない動きが出た ⑥子どもからアイデアが出た ⑦一生懸命動いていた ⑧自由に表現していた ⑨走ることを喜んだ ⑩歌いながら表現 ⑪話をしながら ⑫物足りないようだった ⑬動き足りないようだった ⑭速い動きに興味をもった ⑮自分で考えて鳴き声を出して表現 ⑯興味をもって動いていた ⑰まわる・後ろ向きで走るを喜んだ ⑱ピアノの弾き方に反応した	46 36 8 6 6 5 5 4 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1
消極的参加 16人 (9%)	①保育者の真似をしていた ②1人でできず他の子の真似 ③友達の動きを見てやるようになった ④話に入り込めない子がいた ⑤1人の子の真似になった ⑥友達と表現 ⑦恥ずかしそう ⑧その子なりの参加 ⑨あまりのってくれなかった	5 3 2 1 1 1 1 1 1
不参加 20人 (11.5%)	①疲れていた ②まとまらなくなった ③戸惑っていた ④やってくれなかった ⑤友達のじゃまをする子がいた ⑥フープの取り合いになった ⑦2回目にやらない子がいた	6 5 3 3 1 1 1
その他 45人 (25.9%)	①理解していなかった ②待っている子は退屈そうだった ③単純すぎると飽きてしまった ④スキップが出来ない子がいた ⑤皆同じ動きになった ⑥だんだんあきてきた	2 2 1 1 1 1

表3 活動に用いたもの

	実施数
1. フープ	20
2. マット	6
3. 積木	5
4. ボール	3
5. 魔法のつえ	3
6. 新聞紙	3
7. 巻物	3
8. なわとび	3
9. カセットテープ	3
10. ゴミ袋	2
11. 布団	2
12. 机	2
13. 椅子	2
14. ビニールテープ	2
15. ぬいぐるみ	2
16. 跳び箱	2
17. お面	2
18. 段ボール	1
19. ままごとのスプーン	1
20. ままごとのお皿	1
21. ままごとのおたま	1
22. 輪投げの輪	1
23. 帽子	1
24. 平均台	1
25. 布	1
26. 時計	1
27. 巧枝台	1
28. パネルシアター	1
29. クレヨン	1

表4 活動に用いた動き

	実施数
1. 歩く	115
2. 走る	115
3. 跳ぶ	86
4. スキップ	45
5. まわる	30
6. 揺れる	29
7. 眠る	21
8. ギャロップ	18
9. 転がる	15
10. 体をたたく	5
11. 滑る	4
12. はう	4
13. 固まる	3
14. くぐる	3
15. 泳ぐ	2
16. ひっばる	2
17. 食べる	3
18. のぼる	2
19. かくれる	2
20. カスタネットをたたく	1
21. 話をする	1
22. 踊る	1
23. 書く	1
24. 手を上下に動かす	1
25. 手をたたく	1
26. 休む	1
27. ロボット	1
28. のぞく	1
29. ドアをたたく	1
30. つま先歩き	1
31. じゃんけん	1
32. しゃがむ	1
33. こぐ	1
34. けんけん	1
35. うたう	1

(5) 参考にしたもの

表5に示されるように、最も多いのは、「友達の意見」であり、「園の先生の保育」、「授業」も多い回答であった。これは、いずれも実際に見聞きした活動を参考にするため、具体的な活動内容を組み立てやすいためであると考えられる。特に、「友達の意見」は、条件がほぼ同じであるため、身近な意見として最も多く用いと思われる。

(6) 活動場所

表6に示されるように最も多いのは教室であり、表現活動の多くは、特に場所を移すことなく

「保育者養成における表現活動について(2)」

教室で行える範囲の表現活動が行われていると思われる。また、屋外で活動されることはほとんどなく、教室またはホールのような限られた空間の中で行われている。

(7) 活動時間

幼稚園実習では、幼稚園の先生から保育する姿を見せていただいたり、実習生が責任を与えられ、保育の一部や半日あるいは終日実習を行う。活動時間は表7に示した通りである。これは実際の表現活動に要した時間であり保育の流れや環境の中での動機づけは含まれていない。

(8) 活動に用いた楽器

ピアノやキーボードなど鍵盤楽器が多く使用されている。このことに関しては多保田の先行研究(註2)を参照されたい。

表5 参考にしたもの

	実施数
友達の意見	53
園の先生の保育	36
授業	31
本	26
園の先生のアドバイス	3
CD・テープ等	2
自分のピアノの先生	1

表6 活動場所

	実施数
教室	96
ホール	37
運動場	1
その他	0

表7 活動時間

	実施数
30分以上	0
25～30	3
20～25	6
15～20	30
10～15	62
10分以内	23

表8 活動に用いた楽器

	実施数
ピアノ	110
タンバリン	26
キーボード	8
すず	7
トライアングル	4
太鼓	2
マラカス	2
エッグマラカス	2
フィンガーシンバル	1

(9) 子どもの表現活動の授業について

① 授業を受講して役に立ったこと

実習を経験した後、保育内容研究Ⅳ「子どもの表現活動」授業を受講して役立った内容について、学校が答えたのが表9-1である。

最も多かったのは、1.ディズニー体操が役立った、2.ダンスが役立ったであり、既成のものを活用していることが予想される。また、1.2.に加えて3.動物の表現が役立ったと答えていることから、授業で実際に行ったものを実習でも用いていることが考えられる。

多保田 治江・田 辺 圭子

5.活動にあった音楽を見つけられた、6.リズム曲が役立った、7.ピアノの弾き方、17.音楽を有効に使うことを学んだ、等、音楽と動きの関係についても学んでいることが想像できる。また、4.自分になりきらなくてはいけない、9.恥ずかしくなくなった、11.自由に表現することがわかった、12.自分を捨てることができた等学生自身の変化を感じている。

② 実習を経験して授業に求めるもの

実習を経験して学生達が子どもの表現活動の授業に対して求めるものとして答えたのが表9-2である。多いものとしては1.流れ、2.言葉掛け、5.導入、8.指導の仕方等表現活動の進め方に関する要望であった。また、3.ダンスをもっと、4.いろいろな表現活動を、9.いろいろな物（遊具も含む）を使った表現活動等具体的な表現活動を望んでいる。

授業は1年次に開講されるため、授業内容は具体的な指導法よりも、音と動きによる表現を体験することを重視している。これは、学生達が本学入学以前に表現活動をあまり経験していないためであり、学生達が希望しているような指導法について限られた授業の中にどのように取り組んでいくかは今後の課題である。また、表現活動だけでなく、6.子どもの興味を引く方法や21.子どもの動きを設定しての表現活動～29.子どもがとる行動のように表現活動における子ども理解についても学生からの要望があがっており、これらの内容を授業でどのように組み入れていくかについては検討が必要である。

表9-1 授業を受講して役に立ったこと

	実施数
1. ディズニー体操が役だった	11
2. ダンスが役に立った	11
3. 動物の表現が役立った	3
4. 自分が成り切らなくてはいけない	3
5. 活動にあった音楽を見つけられた	3
6. リズム曲が役だった	3
7. ピアノの弾き方	3
8. 動と静を交互に入れる	2
9. 恥ずかしくなくなった	2
10. 想像を働かせ、イメージできる自分になった	2
11. 自由に表現することがわかった	2
12. 自分を捨てることができた	2
13. 自分たちで考えた表現が役立った	2
14. 子ども達と表現活動を楽しめた	2
15. 子どもに自由に表現させること	2
16. 基本的な動きが役立った	2
17. 音楽を有効に使うことを学んだ	2
18. いろいろな動きを考えられるようになった	2
19. 遊び・表現の仕方を考える上で参考になった	1
20. 歩く動作にいろいろあることを知った	1
21. 表現活動の種類を学んだ	1
22. 同じ曲でも音の高さ、弾き型方を変えることによって違ってくる	1
23. 他人の目を気にしない	1

「保育者養成における表現活動について(2)」

	実施数
24. 他の人の表現の良いところを自分に取り入れていく	1
25. 先生が先に表現すると子どもの想像がなくなってしまう	1
26. 声の大小	1
27. 場のフインキづくり	1
28. 授業と同じ事したら子ども達はばてた	1
29. 自身なさそうにしない	1
30. 子ども達の知らない動物を表現できた	1
31. 子ども達1人1人の表現活動を動きを大切にすることが出来た	1
32. 経験したことで、実習の計画が立てやすかった	1
33. 経験したことが役だった	1
34. 楽しくできた	1
35. 何かを表現するときに決まった型に捕らわれない	1
36. 何かになる経験が役立った	1
37. 何かになることを経験し楽しさを知った	1
38. 音に合わせた動きをする	1
39. リズム活動はあまり役に立たなかった	1
40. ピアノを演奏するときはそのものをイメージして	1
41. ピアノの表現活動	1
42. ピアノのリズムを動きに合わせる	1
43. いろいろな動きを工夫できた	1
44. いろいろな動きが身に付いた	1
45. イメージを引き出すことを授業でやって役立った	1

表9-2 実習を経験して授業に求めるもの

	実施数
1. 流れ	10
2. 言葉掛け	10
3. ダンスをもっと	10
4. いろいろな表現活動を	10
5. 導入	9
6. 子どもの興味をひく方法	6
7. 具体的な実践例	5
8. 指導の仕方	4
9. いろいろな物(遊具も含む)を使った表現活動	4
10. 自分たちで話を作って動く機会を	3
11. 動物や乗り物の表現を授業でしてほしかった	2
12. 書いた紙をかえしてほしかった	2
13. 子どもの年齢でできる表現活動の可能性	2
14. 劇遊びの進め方	2
15. 楽器を使った表現活動	2
16. 先生役になって指導の練習をする	1
17. 実践できるダンスを	1
18. 実習で思い出せるような印象に残る授業	1
19. 実習でそのまま使えるように始めから終わりまで	1
20. 自由に表現できる、自己表現	1
21. 子どもの動きを設定しての表現活動	1
22. 子どもの前で一人でできるリズム活動	1
23. 子どもの心理をからめた表現活動	1
24. 子どもの好む動きを紹介	1
25. 子どものための表現活動	1

	実施数
26. 子どもとともに進行表現活動	1
27. 子どもが表現の世界に入り込むためには	1
28. 子どもから出たアイデアへの対応	1
29. 子どもがとる行動	1
30. 劇遊びの発表の機会を多く	1
31. 狭いところでも楽しめる活動	1
32. 活動を始めるタイミング	1
33. ダンスを1回だけでなく数回	1
34. ストーリーのたてかた	1
35. ゲームを使った表現活動	1
36. グループで発表する機会をもっと	1
37. アイディアをもっと	1
38. 3才児にもできるリズム活動	1
39. 20~30分程度の活動内容を教えてほしい	1
40. 1年次では授業の大切さがわからない	1
41. 1人で司会と楽器を担当する経験	1

Ⅲ. 第一回授業内容の感想と学生の現状

1. 第一回授業内容の感想

保育内容研究Ⅳ「子どもの表現活動」における音楽と動きによる表現に関する授業は、「授業内容」と「感想」を毎回授業後提出させている。第一回の授業に関しての感想は、小学校から高等学校までと違い形態の授業で戸惑いを感じた学生が見受けられる。音楽と動きによる表現は学生の言い方を借りると「幼児期に戻った」という幼児期に体験した楽しい経験と捉えている。しかし現在は頭では理解しているにもかかわらず、即座に動けない、難しいと感じる閉塞状況に陥った学生もみられる。そのあるがままの姿を担当者は受け止める必要があると思われる。

2. 学生の現状

次に、「過去にお手合わせをした経験の有無」を質問した。二人で両手を握り「セッセッセノヨイヨイヨイ」からうたい始めるお手合わせは、音楽と動きが結びついたあそびである。その結果が表10である。

授業内容

ね ら い	課 題	内 容		
		☆あそびうた	◇移動しない動き □移動する動き ◆即時反応	
○身体を認識する	○オリエンテーション ・授業の流れを知り、表現について理解する ○リズムカルに動く ・自分の周りのリズムを知る ・リズムに同期して身体を動かす	☆みんな音楽家	◆合図で拍手を止める ◆音の高低を拍手で表す ◆緊張と弛緩を身体で感じる	□歩く、走る、スキップする

アドバイス……………姿勢に注意する

「保育者養成における表現活動について(2)」

学生の反応

◆即時反応について

- ・合図で反応することが難しかった 15
- ・よく聴くことの大切さを知った 11
- ・合図で反応する時、「間違えたらどうしよう」と思い緊張した 4
- ・心の中に拍を感じていないと即座に反応できない 3
- ・敏捷性を養うことができる 1

□移動する動き

- ・音楽に合わせてスキップすることが久しぶりで初め躊躇した 難しかった 33
- ・ステップする時の姿勢の大切さを知った（雰囲気まで変わる） 26
- ・歩く・走る・スキップの方向チェンジに対し即座に反応できなかった 24
- ・テンポの遅いスキップは難しかった 5
- ・音楽に合わせてステップを変えることは「よく聴く力」や「集中力」を養う 5
- ・音楽に合わせて歩くことは躊躇なくできる 4
- ・音楽に合わせてスキップすることは躊躇なく楽しくできる 4
- ・音楽に合わせて走ることが難しかった 4
- ・合図で方向チェンジすることは子どもに敏捷性を育てる 3
- ・音楽に合わせて歩くことは思ったよりも難しかった 3
- ・テンポの速いスキップは難しかった 3
- ・音楽に合わせて歩く・走る・スキップすることは楽しい 1

☆みんな音楽家（ドイツ民謡／楽器あそびうた）（リーダーが変わる）

- ・あそびうたは楽しかった（木魚モクモクという歌詞）（身体を動かす） 36
- ・あそびうたが久しぶりだったことやすぐに歌詞・メロディ・リズムを覚えることに慣れていなかったことで初めは躊躇したが、だんだん楽しくなった 27
- ・歌詞を覚えることは「記憶力」を養うことになる 12
- ・子どもが喜びそうなあそびうただ（大人も楽しい） 11
- ・リーダーになって皆の前で歌をうたうことが恥ずかしかった 6
- ・楽器の音色は人によって感じ方が異なった 4
- ・あそびうたの中に子どもの育ちに必要要素が多くあることを知り、あそびの深さを感じた 4
- ・楽器の音色を言葉で表すことは難しかった 3
- ・友達の意見が取り入れられ、歌が工夫されていくことは楽しかった 2
- ・あそびうたに相応しい歌い方をする必要を感じた 2

全体を通して

- ・幼児期に戻ったようで心が和み楽しい授業だ 46
- ・小学校・中学校・高等学校と違う形態の授業で初めは戸惑った 19
- ・あそびうたをもっと知りたい 16
- ・身体を動かすことは気持ちが良かった 15
- ・ペアやグループの活動もあり友達が増えて楽しかった 12
- ・疲れた 10
- ・音楽と動きの関係を知った 7
- ・皆の前で動きの表現をすることには恥ずかしかった 6
- ・子どもにとって楽しく大切な活動だろう 4
- ・リズム感を養うために良い授業だ 3
- ・一限目は頭も身体も動きづらかった 3
- ・皆と同じように動くことができ安心した 2

多保田 治 江・田 辺 圭 子

○どんなお手合わせを知っているか

表10

○何種類知っているか

順位	曲 名	人 数
1	アルプス一万尺	103 (90%)
2	お寺のおしょうさん	99 (86%)
3	おちゃらかホイ	98 (85%)
4	みかんの花咲く丘	65 (57%)
5	線路は続くよどこまでも	30 (26%)
6	みそラーメン	26 (23%)
7	茶摘み	12 (10%)
8	桃太郎さん	7 (6%)
9	お寺の中からおばけがヒュー	1 (1%)
	一かけ二かけて	1 (1%)
	すずめの学校	1 (1%)
	もちつきべったんこ	1 (1%)

種類	人数
1	0
2	11
3	28
4	40
5	20
6	15
7	1

お手合わせは全学生が行ったことのあるあそびであった。

九割の学生があそんだことがある一位「アルプス一万尺」はアメリカ民謡で戦後普及した二拍子のうたを利用したものである。うたいながら手合わせのリズムや音色を楽しむ純粋なお手合わせである。同じ種類のお手合わせは他に昭和二十二年レコード童謡として作られ、六拍子のリズムを上手く利用している四位「みかんの花咲く丘」・四拍子のアメリカ民謡をお手合わせに利用している五位「線路は続くよどこまでも」・明治45年文部省唱歌として作られた唱歌を利用した七位「茶摘み」が入る。

二位「お寺のおしょうさん」は歌詞の内容を手で表現し、最後にジャンケンをするお手合わせである。この「お寺のおしょうさん」はテレビの幼児番組で放送されたのでわらべうたにもかかわらず全国的に画一化の傾向のあるお手合わせである。同じ種類のお手合わせは他にラーメンの具を唱えながら合の手の箇所ではジェスチャーをし、最後に「ぐるっとまわってジャンケンボン」とジャンケンをする六位「みそラーメン」がある。これらは複合型お手合わせと言える。

三位「おちゃらかホイ」はジャンケン付きお手合わせである。「ホイ」の箇所でジャンケンをし、「勝ったよ（負けたよ）」と異なった歌詞をうたい、異なった表現（勝った人は万歳、負けた人はお辞儀）をする。またあいこの場合は「あいこで」と同じ歌詞をうたい、同じ表現（手を腰）をする。文部省唱歌として作られた唱歌を利用した八位「桃太郎さん」はグーチョキパーを順にフレーズの終わりを出していくお手合わせでジャンケンで勝敗を決めるものとは異なるのでグーチョキお手合わせと永田は名づけている。（註3）

「お寺の中からおばけがヒュー」（お化けのジェスチャー）・「一かけ二かけて」（一かけは左右の人さし指をかける。二かけは左右の人さし指と中指二本をかけるなど順に指を増やすジェスチャー）はジェスチャー付きお手合わせである。「一かけ二かけて」の歌は大人のはやりうた「一かけぶし」、曲は明治十七年ごろ陸軍軍楽隊指導者ルルーの作曲した「抜刀隊」がはやりうた「ラッパぶし」や「ああ夢の世や」となり子どもたちが手まりうたや手合わせうたとしたもの

「保育者養成における表現活動について(2)」

である。このお手合わせは核家族化が進む現代社会の中で祖母から習いあそんだとのことである。

お手合わせは単に音楽と動きが結びついたあそびで歌に合わせて手を叩き合うばかりでなく、手で様々な音ができることに気づかせてくれる。学生の知っているお手合わせには、次の11種類の音作りの方法があった。自分で手を叩く時に比べパートナーと手を合わせる時はコントロールも必要である。

- ・拍手する
- ・上下に拍手する
- ・肘を叩く
- ・パートナーと右手を合わせる
- ・パートナーと左手を合わせる
- ・パートナーの左掌を右手で打つ
- ・パートナーの右掌に左手で打つ
- ・パートナーと両掌を合わせる
- ・パートナーと両手の甲を合わせる
- ・パートナーと右手の甲を合わせる
- ・パートナーと左手の甲を合わせる

また、お手合わせはドラマとして発展できることに筆者は注目したい。

さて、日常生活の中での音楽と動きに関する学生の実態を知るため「聴くと自然に身体が動く音楽の有無」を質問した結果が表11である。

77名(67%)の学生が聴くと自然に身体が動く音楽を持っていた。近年の流行歌にもダンス付きのものが多くこの調査結果にも「PUFFY」「安室奈美恵」「スピード」の歌が入っている。また、子どものうたにおいてもテンポがよく、リズムカルなものが自然に身体が動く音楽として捉えている。

○聴くと自然に身体が動く音楽があるか 有77(67%) 無38(33%)
 D…ダンス音楽 SG…あそびうた M…音楽 S…流行歌 S…子どものうた

表11

順位分類	曲名	回答数	17位回答数1のもの
1 D	ミッキーマウスマーチ	7	D マカレナ
2 SG	大きなくりの木の下で	6	M スケーターワルツ(ワルトトイフェル)
3 S	PUFFYの歌	5	三角帽子(ファリャ)
M	ラテン音楽	5	剣の舞(ハチャトリアン)
5 SG	アブラハムの子	4	運命(ベートーベン)
D	体育の授業のダンス曲	4	白鳥の湖(チャイコフスキー)
	全ての音楽	4	ランニング(エンゲルマン)
S	安室奈美恵の歌	3	SG ホーキポーキ
9 D	ジャナイジムナスティックス	3	幸せなら手を叩こう
S	さんぽ	3	S 手のひらを太陽に
11 SG	アルプス一万尺	2	さよならマーチ
S	ともだちさんか	2	はをみがきましょう
D	ユーロビート系の曲	2	S ジュディ&マリの歌
S	ドラえもん	2	ドリムカムトゥルーの歌
S	スピードの歌	2	東京スカパラダイスの歌
S	グローブの歌	2	

IV. おわりに

今回、学生の現状調査によって次の結果が得られた。

- ・音楽と動きによる表現に対して学生は「幼児期に戻った」という幼児期に体験した楽しい経験と捉えている。しかし第一回の授業の感想にもあるように頭では理解しているにもかかわらず、

多保田 治 江 ・ 田 辺 圭 子

即座に動けない、難しいと感じる学生がいる。

- ・音楽と動きが結びついたあそびであるお手合わせは、全ての学生が知っている。
- ・七割の学生が聴くと自然に身体が動く音楽を持っている。

あるがままの学生の姿を授業担当者は受け止める必要があると思われる。ティームティーチングのスタイルで授業を行っているので、共通の保育に対する理想や価値観を持つことが必須条件である。また、共通の認識を持ち各自担当の授業にも生かすことは限られた期間に広範囲な教科を教授しなければならない保育者養成校において効果的であると思われる。

我々は「academicな教育手法」と「pragmaticな教育手法」の折衷型である「理論を学びながら、保育現場に役立つ方法も学ぶ」授業形態であるべきだと考える。そして豊かな感性や様々な表現の可能性を見出せる力を持ち、子どもの音楽と動きによる表現にフレキシブルな対応ができるような保育者を養成したいと考える。

参 考 図 書

1. 永田栄一「遊びとわらべうた」青木書店, 1982年
2. 尾原昭夫「日本のわらべうた 室内遊戯歌編」社会思想社, 1972年

註

1. 多保田治江・田辺圭子「保育者養成における表現活動(1)」北陸学院短期大学紀要第28号, 1996年
2. 多保田治江「子どもの豊かな表現活動を求めて(1)」北陸学院短期大学紀要第22号, 1990年, 19-20
3. 永田栄一「日本のわらべうた遊び35」音楽之友社, 1985, 35